

## — 1. 支部長挨拶 —

(公益社団法人) 日本気象学会北海道支部 支部長 矢野 敏彦

会員の皆様には、日頃より日本気象学会北海道支部の事業運営にご協力をいただきお礼を申し上げます。

このたび、6月12日に開催された日本気象学会北海道支部の令和元年度第1回理事会において、第31期の支部長を仰せつかりました矢野と申します。皆様からのご支援・ご協力をいただきながら、北海道支部の発展のために微力ではありますが最善を尽くしたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。



さて、近年、我が国は多くの自然災害に見舞われています。気象災害に目を向けますと、昨年は「平成30年7月豪雨」により、広島県や岡山県をはじめ全国各地で甚大な災害が発生しました。北海道においても空知地方、上川地方で河川の氾濫や住宅等の浸水被害があったほか、農業被害等も多数発生しました。このような災害をもたらす極端な気象現象の増加は、地球温暖化による気候変動がその背景にあると考えられており、北海道においても大雨や短時間強雨に増加傾向がみられています。

気象現象が激甚化していく中で、今後は大学等の研究機関の「学」及び気象庁をはじめとする「官」、また気象測器メーカー等の「産」がしっかり連携しつつ、気象や気候の精緻な解析をもとに、そのメカニズムの解明を進め、また予測精度を一層向上させ、また、気象災害に対する普及・啓発等を行っていき、最終的に自然災害を軽減して国民の安全・安心を確保することがこれまで以上に重要になってきています。そのような観点から、日本気象学会の役割はますます大きくなっているものと思います。

北海道支部としましても、日本気象学会のひとつの組織として、学会という枠組みの下で学会員それぞれの力を出し合い、気象学の発展を通して、先に述べたように社会へ貢献していきたいと考えております。その中では、いわゆるアウトリーチ活動や、新たな会員の獲得も重要になってくると思います。そのためには、支部として学会員同士の交流がさらに深められるようにすることや、あるいは社会に向けての情報発信に力を入れていきたいと考えております。

また、平成30年から、北海道支部における気象学の発展に寄与した会員及び支部発表会において優れた講演を行った主に若手の会員を対象に、「北海道支部賞」及び「北海道支部発表賞」として表彰する取り組みを始めました。この取り組みが調査・研究を行う会員の励みとなり、北海道支部の活性化に繋がればと期待しています。

最後になりましたが、会員の皆様には、今後ますますのご指導・ご鞭撻を賜りますようお願いして、私からの挨拶といたします。

(札幌管区気象台長)